

新幹線プレス



2025年7月4日

No.711

発行者 伊藤 一也

編集者 教宣部

JR東海労新幹線地本



新幹線地本は、6月29日大崎第二区民館で第32回定期大会を開催しました。

会場には組合員はもとより多くのOBも傍聴で参加し、御用組合に転落したJR総連による組織破壊策動を跳ね返した今、新たな闘いを進めようという決意と実践の報告がされました。

■来賓のあいさつ

◆本部 瀧上委員長

・東海労のこれからの課題は総連が放棄した労働者市民との連帯をつくっていくこと。アクセスのインタビューを読み返して欲しい。・社会連帯機構に加入した。地域での連帯を拡げJR東海労の運動と価値観の共有をつくりだしていこう。

◆新幹線関西地本 渡辺副委員長・津崎裁判に続いて新たに嘘の報告を行った元総連書記長熊谷を追加提訴した。

◆JS 労柳楽委員長・結成から二年。これまで申し入れ27回 団交20回 ニュース79号発行。・最近も職場の空調改善を勝ち取り、組織拡大が実現した。

◆地本OB 会田中会長・改革以降ずっと職場の労働条件改善を進めてきた。裏切った元役員たちは何をやってきたのか。怒りを持って付和雷同しただけの仲間にかかわっていこう。



■伊藤委員長

・ウクライナ、パレスチナ、イラン、労働者市民が犠牲になっている。学術会議を政府のもとに組み込み、改憲の動き進む。あらゆる戦争と戦争体制づくりに反対していこう。参院選は沖縄で平和運動を闘う山城ひろじ当選をめざす。・地本OB

会は脱会策動を許さず定期総会を開催し新体制を確立した。・未来を切り開くあらゆる仲間との連帯を。ひがし労との交流や、労働相談センター開設で虐げられた労働者との交流がつくられている。本部 齋藤副委員長は最終勤務で職場の仲間から花束が送られた。日常の関わりを目的意識を持ってつくろう。・リニア即刻中止を。

■発言要旨

◆・自分たちに背中を見せていた先輩が脱退した。残念だ。J R東海労をつぶしてはいけないと言っていた人がなぜ脱退するのか。

・あとから脱退していった、最後に裏切ったものは人間として許せない。動労、J R東海労があったから鉄道人生を全うできた。今後も力添えしていく。・離れていった人を取り戻す取り組みを。

◆・齋藤さんの退職セレモニーで若い人が花束。すごいことだ。付き合いを続けてきたことで信頼を得ている。・今月退職だが組合員として今後もがんばる。今後も若手と接して声を聞いていく。・脱退者が出て寂しい。今の組織の良さを示す闘いをつくろう。・出向三年、市民権を得た。その先の繋がりを広げていく。再就職先でJ R東海のひどさを伝えている。

◆・出向先の勤務引継ぎ時間が労働時間外とされている。プロパーの社員からも要望が出ている。団交を開催して欲しい。・これまで明治神宮でも出向者が引継ぎ時間超勤を勝ち取っている。・車両所で休日買い上げが続いている。・昇給制度についての不満が出ている。若手は将来展望が定まらない。若手も会社にモノが言えるようになってほしい。彼らはわれわれの姿勢を見ている。・新しいシステムついていけない。チェックシートなど新しいシステムが導入され大変だ。活用は無理だ。・若手社員に仕事に対する姿勢も見せていく必要がある。



■執行部答弁・総括答弁

・何で先輩が脱退。自分も同じ気持ちだ。腹ただしい。事実をしらないで批判をしてきたOB

・他労組の若手に労働条件改善で闘う背中を見せよう。出向者も職場で信頼得ている。・全組合員で取り組みよう。・志を同じくする人達との闘いをともにつくろう。・戦争をさせない闘い。・J R総連にかわる労働運動をめざそう。

・参議院に山城ひろじを

